



学校だより

7月号

横浜市立大道小学校
令和4年6月30日



← 学校 WEB ページはこちらから

校長 加藤 和之

「侍従川を下って、野島の海へ」

今年は、6月末から30℃を超える日が続くなど、例年にない早さで、本格的な夏がやってきたようです。今からこんな様子だと、7月、8月はどうなってしまうのだろうと、うんざりとしてしまいます。学校では、子どもたちが熱中症にならないよう、十分に注意しなくてはなりません。時には、体育の学習や休み時間を制限しなくてはなりません。子どもたちが楽しみにしている時間だけに、大変心苦しく思うのですが、ここは安全第一です。「WBGT計」を活用しながら、適切に判断していきたいと思っています。

先日、3年生の「野島校外学習」に行ってきました。子どもたちは、「侍従川清掃」などを通して、地域を流れる川に親しんできました。生息する生き物に興味をもっている子もたくさんいます。今回は、その「侍従川」沿いに下流まで歩き、周囲の様子はどう変化するか、どんな生き物がいるかを観察します。そして、河口の先にある「野島」で、磯にいる生き物を調べるというのが目的です。

出発する子どもたちは、楽しみで仕方ないといった様子でした。内川橋を過ぎたところで川を覗き込むと、何と優雅に泳ぐ「クロダイ」と思われる魚影が見られるではないですか。それが1匹ではありません。子どもたちは、「すごい!」と歓声を上げています。「海の魚がここまで来るんだ。」と驚いている子もいました。平潟湾に近付くと、「エイ」の姿や、「ボラ」の群れも見ることができました。地域の「侍従川」の環境が、こうやって海とつながっていることが実感できたようです。

野島に到着すると、早速海の生き物観察です。潮の干満の関係で、必ずしも観察しやすい状況ではありませんでしたが、カニやヤドカリ、貝や海藻など、様々な生き物を見つけては、歓声を上げていました。その後、採取した生き物を集めて「ミニミニ水族館」をつくり、ゲストティーチャーに生き物について解説していただきました。食い入るように聞いている子どもたちの姿が印象的でした。また、海岸に落ちているゴミを拾う子もいて、「侍従川清掃」の取組が活着していると感じました。

こうして生き生きと活動する子たちを見ていて再認識したのは、やはり「体験すること」の大切さです。その子の感性を目一杯働かせながら、実際に見て、触って、感じることで、興味・関心が高まります。そして、それについて調べたり、話を聞いたりすることで、さらに実感を伴った「学び」へとつながっていくと思うのです。これは、「生き物」や「環境」についてだけではありません。今回は興味をもてなかった子も、別のことを体験したり、実際に見たりした時に、その子の「アンテナ」に引っ掛かるかもしれません。ですから、私たちは、今回のような「体験的な活動」「人とかかわる活動」をできるだけ多く取り入れていかななくてはならないと思います。

今回改めて感じたことのもう一つは、「大道」「六浦」を含む「金沢」という環境の素晴らしさです。子どもたちと一緒に海に入っていて、「この子たちは、本当に良いところに住んでいるのだな。」と思いました。自然、環境、歴史....、この地域には、子どもたちの学びにとっての「宝」がたくさんあるのですから、「大道小ならでは」という取組を大切にしていきたいものだと思います。